

酪農と養蜂

山形 純男

乳牛の導入で飼料作物の栽培は毎年増加してきました、この飼料作物は蜜蜂の蜜源としてたいへん有難い流蜜作物であります。

酪農による牛乳が農家の食生活改善にやく立っておりますことは申上るまでもありませんが、この牛乳に蜂蜜を色々と工夫して使用しますなれば滋養豊かな栄養食を作ることが出来得ると存じます。したがって酪農地帯に於ける副業養蜂は次第に有望となってまいりました。

御承知の通り蜜蜂は山野に咲きます草木の花から花蜜を集めて巣箱の内に貯蔵するのですが、もし蜜蜂が集めない時は他の昆虫類の飼になるか又は雨と共に流れてしまいます。又反面植物の花粉を媒介して結実を助長し農作物の増収を計ってくれます。

最近アメリカでは新農菜による昆虫類の減少で果樹の結実がわるいので蜜蜂の大群を果樹園に転地させ花粉の交配を助長さすのを目的とした養蜂業もできております。

日本でも最近では強烈な農薬の散布で害虫も益虫も共に減少してきましたので、所により花粉の交配のため蜜蜂の転飼を希望せられる向も次第に増加してきました。事例を申上ますと邑久郡の南瓜地帯とか宮崎県並に鹿児島県の菜種栽培の地方とか蜜蜂の花粉媒介で相当の増収をしておる状況です。

本県の気候風土は養蜂に適しておりまして、県外の養蜂業者が毎年2,000群以上の群勢を本県に転飼しまして可成の成績を上ております。本県には養蜂業者も少なく又技術もあまり進んでおりませんので、もっと皆さんに酪農と共に養蜂を奨励し、自家用糖分を自給すると同時に農作物の増産を計るため蜜蜂の飼育を御進めしその飼育法を簡単ながら申上げます

▽蜜源並に花粉源

養蜂を始めるには第一に蜜蜂の食糧であります花蜜と花粉があるかどうか調査しなければなりません。本県の蜜源花粉源の主なるものは、なたね、れんげ、みかん、ふくらし、南瓜、栗、そば、びわ、あくら、とち、りょうぼ、あとだをれ、はっか、ぬりで、爪類、

もも、さくら、みぞそば、茶、はぎ、クローバ、アカシヤ、柿等で花粉源のみですと、稲、菊類、ひでり草、李、しやしや木、月見草、等ですから内海の小鳥を除く全県下で飼育することができます。只1ヶ所で飼育する蜜蜂の群数が蜜源の多少で増減せねばなりません。

普通の常態の所で5群から10群位飼育可能です。又時期的に小転地しますならば30群位飼育することができます。

農家の副業では20群位から30群位迄が適当と思えます、専業養蜂となりますと150群から250群位飼育しております。

▽採蜜量

蜜蜂が貯蜜するのは夏とか冬とか花の少ない時の食糧を貯蔵するのを人工的に巣箱から蜜を分離して採蜜収納するのですから、花から多量の花蜜を分泌する時、すなわち流蜜期でなければ採蜜することはできません。本県では普通4月下旬より6月上旬までです。そばの花がたくさんある小田、後月、川上の地方では年により秋蜜を少し位採蜜することができる年もありますがあまり期待することはできません。ではどの位採蜜出来るかと申しますと普通24キロ（石油缶1本）（約1斗）です。ところがこれはほんとうに普通で時には60キロも70キロも採蜜した業者もあります。又反対に2キロか3キロしか採蜜できないこともあります。

これはその年の天候、気温、蜜源の状態等でことなりますが、又蜜蜂の群勢による場合もありますから常に強大群を飼育するように心掛ねばなりません。蜜蜂1疋が運びます蜜蜂の量は米粒の半分位ですから、できるだけ数多くの働蜂を1群の内に飼育することが大切なことです。これを巣箱の枚数で申上ますと夏期15枚以上冬期6枚以上の蜂が1群中におるように注意して管理せねばなりません。

▽種蜂の買い方

種蜂の信用のある商店又は業者から購入すること

岡山畜産便り1959.10

が第一条件であることは申上るまでもありませんが、近時蜜蜂の法定伝染病であります腐そ病が大流行しておりますから、県外より購入する時には関係府県の畜産課の無病証明書のあるものでなければなりません。

できれば県内の相当技術的にも信用のある業者より購入せられれば以後の技術指導を受ける面でも有利です、又運搬も近いので群勢の強い大きいものが購入できます。

前にも申しました腐そ病は私し等業者の一番恐しい病気で、現在の技術では治療方法も消毒方法もありません。只焼却するより他に方法がありませんから業者相互に注意して腐そ病が県内に入らないようにしなければなりません。本県にも昭和23年頃上道郡に、又昭和30年頃に阿哲郡、上房郡で発生しましたが、本県畜産課の適切な防疫と業者の自覚で他へ伝染することなく消失しましたので現在本県に腐そ病は幸に発生しておりません。

▽蜜蜂の習性

蜜蜂には従来日本におります日本種と外国より輸入しました西洋種とありますが、私等が飼育しておりますのは西洋種です。日本種も山間地で相当たくさん飼育されておりますが、性質が荒く採蜜量も少ないので改良せられた西洋種の方がよいのです。

蜜蜂の巣箱の中には蜂王（女王蜂）と働蜂と雄蜂の3通おります。

1. 蜂王

女王蜂は1群に1匹おまして完全な雌蜂で受精した卵より生れます。蜂王としての特別飼料で幼虫から育てられた巣房も他の幼虫とは区分され下向となっております。これを王台と申します。

今頃ロヤルゼリーと言われておりますのが蜂王の幼虫時代の飼料で、コンデンスミルクのような乳白色のどろりとしたものです。蜂王は卵の期間3日、幼虫8日、蛹5日が出房し、3日から10日位で雄蜂と空中で交尾し雄蜂の精液を自分の体内の精のうに貯蔵し、産卵の時精液を入れて産みます。精液を入れずに産卵することもでき、この場合の無精卵は雄蜂になります。蜂王の寿命は3年から5年位でこの間群を統率していつも産卵し、群勢の維持と流蜜にマッチした産卵調

節をします。したがってその群中全部の（働蜂雄蜂）母でもあります。1群中に1匹しかおりませんが、2匹以上になるような場合は古い蜂王が群勢の約40%をつれて巣箱より出て行きます。これが分封で春4月上旬より7月上旬頃迄によくこういう常態が発生します、蜂王は毒針を持って居りません。

2. 働蜂

働蜂は不完全な雌蜂で卵は蜂王と同じ受精卵より生れます。卵の期間は3日幼虫10日蛹8日で働蜂房より生れます。働蜂房は横向で小穴の六角型巣房で卵は蜂王が産みます。出房して10日間位は造巣とか幼虫の飼育等巣箱内の作業にしますが、10日目頃から巣箱外に飛出して翹をならし次第に山野に飛翅して花蜜花粉水塩等を巣箱に運びます。寿命は4月、5月頃の活動が盛んな時で2、3ヶ月位です。又活動しない時（冬期）で4ヶ月位です。老蜂になりますと巣箱の管理外敵駆逐等をし、自から巣箱を出て死んで行きます。1群中に多い時は3万、4万と群がって共に花蜜花粉を巣箱に運び寿命のあるかぎり働き続けるのです。又蜂王が交尾に出て帰らない場合とか蜂王が死んだ時には働蜂は働蜂卵をもって王台を作り、後継の蜂王を作りますがそれでも後継の蜂王が出来ず無王の常態が長く継くような場合には働蜂が産卵を始めます。これを働蜂産卵と申します。この場合無精卵ですから生れてくる蜂児は全部雄蜂で自滅します、働蜂は争闘のため毒針をもって居り、さしますから注意して下さい。

3. 雄蜂

雄蜂は早春3月下旬頃から蜂王が雄蜂房（働蜂房より少し大穴六角横向）に産卵（無精卵）します。卵の期間は同じく3日、幼虫11日、蛹10日が出房します働蜂の幼虫は乳白色ですが雄蜂のは少し灰色をしており、尚蛹のふたが雄蜂の方はとび出していてすぐ見てわかります。

出房後2週間位で飛翅し未交尾の蜂王と空中で交尾します。寿命は1ヶ月位ですが流蜜期が終わったら蜂王は産卵を減少し働蜂は巣箱から追出します。それですから普通流蜜期間中しか巣箱内におりません。これを雄蜂のかみ出しと言います。雄蜂は毒針を持っておりません。

岡山畜産便り1959.10

▽蜜蜂の品種

蜜蜂の品種にはイタリアン、カーニオラン、コーカシヤン、サイプリアン等がありますが、それぞれ長所短所があります。今日本で飼育されておりますのはイタリアの雑種（日本の気候風土に適するように改良されたもの）がほとんどです。近年諸外国より純系種の輸入をしていますが、私は日本の気候風土にあうように改良せられたイタリアンの雑種が一番よいと思っています。しかし近年ノゼマ病とか、はい出し病とかが流行していますのでこうした病害に強く、又採蜜量も多く越冬越夏の状態が良い群を毎年原種群とし蜂王をこの群で養成して行くように心掛け、少しでも退化しないように自分で改良することがかんじんです。

10群以内の副業養蜂では血統が非常に近親となりがちです。血統が近親になりますと蜜蜂の性質が荒くなり、管理に不便であり、又隣り近所の人を毒針でさしたりしますから、3年か4年に新たな血統の蜂王を購入し、近親にならないようにしたのがよろしい。

